		［削る］	
		2　投資額の算定 次の算定式により局ごとメタル回線収容装置投資額を求め、全ての局について当該投資額を合算したものに、メタル回線収容装置ソフトウェア投資額（(3)に係るものを除く。）を加え、メタル回線収容装置投資額を算定する。 (1)　メタル回線収容装置（回線収容部）投資額 ＝アナログ電話用ボード数×アナログ電話用ボード単価 ＋第一種総合デジタル通信サービス用ボード数×第一種総合デジタル通信サービス用ボード単価 ＋第二種総合デジタル通信サービス用ボード数×第二種総合デジタル通信サービス用ボード単価 (2)　メタル回線収容装置（ユニット部）投資額 ＝メタル回線収容装置ユニット数×メタル回線収容装置ユニット単価 (3)　メタル回線収容装置（ユニット部ソフトウェア）投資額 ＝（メタル回線収容装置ユニット数×メタル回線収容装置ソフトウェア単価） ×メタル回線収容装置（ユニット部）投資額 ÷（メタル回線収容装置（回線収容部）投資額＋メタル回線収容装置（ユニット部）投資額） (4)　局ごとメタル回線収容装置投資額 ＝メタル回線収容装置（ユニット部）投資額＋メタル回線収容装置（ユニット部ソフトウェア）投資額	
メタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ	1　設備量の算定 (1)　収容局ごとに、次のア及びイにより求めたユニット数のうちいずれか大きいものを当該局のメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷユニット数とする。 ア　メタル回線収容装置100Mインタフェース数をメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷポート収容率で除したものをメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ100Mインタフェース数とし、これをメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ１ユニット当たり最大インタフェース数からメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ１ユニット当たり音声収容ルータ接続数を減じたもので除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。）		
		(3)　(2)の音声収容装置シェルフ数を音声収容装置架当たり最大収容シェルフ数で除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。）を音声収容装置架数とする。 2　投資額の算定 次の算定式により局ごと音声収容装置投資額を求め、全ての局について当該投資額を合算し、音声収容装置投資額を算定する。 (1)　音声収容装置（回線収容部）投資額 ＝音声収容装置ラインカード数×音声収容装置ラインカード単価 (2)　音声収容装置（ユニット部）投資額 ＝音声収容装置シェルフ数×音声収容装置シェルフ単価＋音声収容装置架数×音声収容装置架単価 (3)　音声収容装置（ソフトウェアユニット部相当）投資額 ＝（音声収容装置シェルフ数×音声収容装置ソフトウェア単価）×音声収容装置（ユニット部）投資額÷（音声収容装置（回線収容部）投資額＋音声収容装置（ユニット部）投資額） (4)　局ごと音声収容装置投資額 ＝音声収容装置（ユニット部）投資額＋音声収容装置（ソフトウェアユニット部相当）投資額	
音声収容装置用Ｌ２ＳＷ	1　音声収容装置用Ｌ２ＳＷの設置基準 収容局に設置する音声収容装置シェルフ数が３以上の場合には、当該局には音声収容装置用Ｌ２ＳＷを設置する。 2　設備量の算定 (1)　音声収容装置用Ｌ２ＳＷ設置局ごとに、次のア及びイにより求めたユニット数のうちいずれか大きいものを当該局の音声収容装置用Ｌ２ＳＷユニット数とする。 ア　音声収容装置シェルフ数及び収容ルータユニット数の合計を音声収容装置用Ｌ２ＳＷポート収容率及び音声収容装置用Ｌ２ＳＷ１ユニット当たり最大インタフェース数で除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。）		